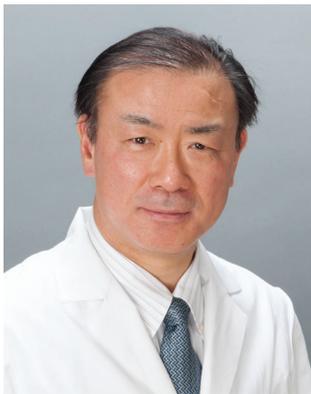


がん診療とその中で 日本がん治療認定医機構が果たす役割

理事 西田 俊朗



日本がん治療認定医機構 (Japanese Board of Cancer Therapy: JBCT) は、日本医学会の提言に基づき2006年12月に発足しました。がん関連の学術研究の向上・発展を図ることを主たる目的とした日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の3学会に加え、地域でがん医療を中心的に行っ

ている全国がん (成人病) センター協議会が加わることで、科学的かつ実践的な幅広いがん教育を提供することが可能となりました。発足以来10年を経過し、現在では、がんに関係する61学会と連携して事業を進めています。事業の主体は、がん教育の機会の提供と幅広いがんの知識と専門性を兼ね備えたがん治療医の育成と認定です。

全国がん (成人病) センター協議会は、がん診療に実績があり高い志を持った専門性の高い32病院が集まり、昭和40年に発足しました。現在では全国がんセンター協議会 (通称「全がん協」) という名称になっています。がんの予防、診断および治療等の向上に必要な、或いは運営上の諸問題に関係する調査や研究を行い、政策に反映するよう努力し、同時に、がんの正しい情報を提供することを目標としています。

JBCTが研修の機会や認定医制度を通し目指していることは、第一に、がん患者さんが全国どこでも自らの住居地で、暮らしを続けながら適正ながん治療が受けられる様、がんの治療ができる総合医を育てること、そして今一つは、がんの専門医に、自らの専門領域とは異なるがん領域での最新の医療情報と知識を提供し幅広い知識や技術を持って貰うことです。医学の知識や科学の情報が指数関数的に増大するこの時代、医療開発には最先端の科学に基づく技術や豊富な医学的知識を必要とし、医療の実践の現場でもエビデンスに基づく医療の実施が求められています。例えば、

Clinical sequenceが日常診療で行われるゲノム医療の時代になり、患者個々のゲノム情報やその他の生体分子情報に基づくPrecision Medicine (精密医療) の実践ががんの専門医に求められる時代になってきました。また、近年がん診療に導入された免疫チェックポイント阻害剤や本邦では未だ未承認のCAR-T細胞療法等新しい免疫治療は、一部のがん患者さんではあるもののこれまでに無い画期的な治療効果を示しています。これら免疫治療の効果は、ゲノム変異にも関連しており、がん医療は高度であると共に非常に幅広く複雑に絡み合っています。特定の領域に特化した専門医も、自分の専門領域よりも広い領域で最新の科学や医療情報を持ち、日々更新し続けることが求められています。その意味でJBCTが提供する教育の機会は、この度新たに運用が開始された、新専門医制度とともに協働することで、質の高いがん専門医を育てることができると考えます。

今、医療者や病院には、提供する医療に高い品質と安全性が求められています。がん拠点病院の要件の見直しでも、拠点病院の医療安全と医療の質の確保は最優先項目の一つとなっています。これらに答える為には、多職種多診療科によるチーム医療の実施とそのリーダーとなる高い技能と幅広い知識を持ったがんの専門医が必要です。当機構の提供する研修・認定制度は、幅広い知識と高い専門性と云う簡単には両立しない技能を備えたがんの専門医の育成に貢献してきましたし、これからも引き続き貢献していくと思います。日々進歩し続ける医療の中で、がん治療医が、患者さんに適切な医療をとどける為に重要なことは、今のエビデンスを正確に把握するだけでなく、それらを幅広い多方面の知識で評価し、判断を下す科学的思考力を身につけることだと思います。その面でも、機構が提供する制度が、有効に使われることを祈念します。

がん治療認定医総数

15,950名

がん治療認定医 (歯科口腔外科) 総数

459名

2018年4月1日現在

▼ 目次

がん診療とその中で日本がん治療認定医機構が果たす役割	1
2017年度認定医試験報告	2
2017年度審査結果報告	2
暫定教育医制度廃止について	2
役員一覧	2
2017年度セミナー見学会・懇談会	3

設立10年を経て	3
不正アクセスによる登録情報の流出に関する ご報告とお願い	3
セミナー聴講	3
2019年度教育セミナー・認定医試験開催情報	3
2018年度予定、編集後記	4

2017 年度認定医試験報告

教育委員会

委員長 滝口 裕一



2017年11月12日に12回目のがん治療認定医試験が実施され、1,356名が受験しました。テキストの第I部（がん治療に求められる基盤的知識）、第II部（各種悪性疾患の診断と治療の基本原則）から1:1の問題数、配点でした。合格者は907名（医師871名、歯科医師36名）、合格率66.9%という結果で、昨年に引き続きやや改善（図参照）し、平均点も昨年の42.2点から44.1点（医師のみ44.5点、歯科医師のみ38.6点）に向上しています。昨年より組合せ問題を廃止し、五肢二択問題（X2タイプ）を採用するなど難易度が高くなっているかとの危惧もありました。合格者の日頃の研鑽に敬意を表したいと思います。しかし、緩和ケアに関する極めて基本的な問題の正答率が35.0%となっており、分野によっては受験者の

準備不足の側面もあることが明らかになっております。

本機構では試験問題の質の向上を図るため専門家も交えて多面的な検証を行い品質管理の向上に努めています。受験者の皆様におかれましては、本認定医試験を今一度ご自身のがん治療に関する基盤的知識の点検の機会ととらえていただき奮ってのご参加を期待いたします。



2017 年度審査結果報告

資格審査委員会

委員長 檜山 英三



2007年度にがん治療認定医の審査が開始され、既に11年が経過し、昨年度より2度目の更新審査が始まりました。また、審査合格率は新規、更新共に99%超で、本資格の申請手続はかなり広く周知され円滑に審査がすすんでいます。現時点で、がん治療認定医が16,000名を超えると同時に、更新手続を終えて指導責任者の資格を得た医師が10,000名を超えました。

での幅広い知識と研修を受けた資格として洗練されてきています。また、認定研修施設については、迅速病理診断や緩和医療体制がより充実する方向に進み、本機構の活動は認定医の養成のみならず、認定施設の日常のがん治療水準向上にも寄与し、本機構の目指す方向に着実に進んでいるといえます。

2016年度から新規申請資格に「緩和ケア研修会」受講修了を必須といたしましたが、昨年度の更新申請者（猶予期間あり）の中でもすでに修了していた割合は93.9%に達し、本資格ががん治療に携わる医師、歯科医師とし

2017 年度がん治療認定医審査結果

新規合格者数 **845** 名
更新合格者数 **4,755** 名

暫定教育医制度廃止について

暫定教育医は、がん治療認定医制度設立当初の2007年に、認定研修施設におけるがん治療研修者を指導する立場（指導責任者）の資格として、暫定的に設けられました。

制度発足から10年が経過し、新たな指導責任者（「がん治療認定医」及び「がん治療認定医（歯科口腔外科）」で更新済の者）が10,000名を超え、一定の成果を得ていることから、当初の予定どおり2018年3月31日に廃止いたしました。

これまで暫定教育医としてがん治療研修者への指導にご尽力いただきました諸先生方に、心よりお礼申し上げます。

役員一覧

- 理事長 西山正彦（群馬大学）
- 副理事長 野田哲生（がん研究会がん研究所）、大江裕一郎（国立がん研究センター中央病院）
- 理事 井本 滋（杏林大学）、滝口裕一（千葉大学）、藤 也寸志（九州がんセンター）、西田俊朗（国立がん研究センター中央病院）、西村恭昌（近畿大学）、野々村祝夫（大阪大学）、馬場英司（九州大学）、馬場秀夫（熊本大学）、張替秀郎（東北大学）、檜山英三（広島大学）、藤原俊義（岡山大学）、宮園浩平（東京大学）、森 正樹（大阪大学）、八重樫伸生（東北大学）
- 監事 中村卓郎（がん研究会がん研究所）、平岡真寛（日本赤十字社和歌山医療センター）

2017年度 教育セミナー 見学会・懇談会

広報・渉外委員会

副委員長 藤 也寸志



2017年11月11日に、がんに関連する15学会の先生方にご参加いただき、本機構の教育セミナー見学会、意見交換会を実施しました。意見交換会では、西山理事長よりがん治療認定医制度の経緯と現状の説明に加えて、新しい専門医制度の開始に伴う本機構の今後のあり方について、61の各関連学会へのアンケート結果に基づいた説明がありま

した。これらを踏まえて、各学会から本機構教育セミナーに関する要望、各学会の新専門医プログラムにおけるがん領域における教育カリキュラムの紹介、本機構からの提案への意見など、様々なご意見をいただきました。今後、それらのご意見を生かして、本機構の活動をさらに充実したものにしていきたいと考えています。

設立 10 年を経て

事務局担当理事 藤原 俊義



がん治療認定医制度は、がん医療の均霑化と国民から信頼できるがん治療医の育成を目的としてスタートしました。その運営の中核をなす日本がん治療認定医機構（JBCT）は、2006年12月16日、日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会の3学会と全国がん（成人病）センター協議会の計4団体の連携による任意団体として設立されました。以来10年、その道程は平坦ではありませんでしたが、機構役員の先生方ならびに関連学会の先生方のご尽力により、すでに15,000人を越える認定医を輩出してきております。

これを機に、本機構の広報・渉外委員会を中心に「10年史」を発行いたしました。JBCTの10年の歩みを記録するとともに、今までJBCTの発展を支えてくださった方々（計113名）より心のコもったご寄稿をいただきました。このJBCTニュースがお手元に届くころに、関係者および各認定研修施設

設にお送りする予定です。

また、JBCTと共に10年以上歩んで来られた2回目更新の認定医の先生方に、感謝の気持ちをこめて「ピンバッジ」を贈呈することといたしました。この「ピンバッジ」は、更新認定証と一緒に送りする予定です。がん治療認定医であり続けることに誇りを持っていただき、多くのがん専門医を生み出す本機構、本制度の発展を一層ご支援いただきますよう、お願い申し上げます。



不正アクセスによる登録情報の 流出に関するご報告とお願い

理事長 西山 正彦



本年2月、本機構が運営するがん治療認定医「変更届システム」（以下、本システム）において、第三者による不正アクセスにより、お預かりしている情報の一部が流出した可能性があることが判明いたしました。がん治療認定医および関係者の皆さま方に多大なるご迷惑とご心配をおかけすることとなったことを深くお詫び申し上げます。

被害の拡大を防ぐため、本システムおよび「認定医名簿」

をクローズし、ご登録いただいているパスワードを全て消去いたしました。また、3月下旬から4月上旬にかけて、情報の流出の可能性がある方にはお願いと注意喚起を個別にメールにてご連絡させていただきました。

現在、原因究明、流出した情報の調査、そして新システムの構築について、理事会で検討を重ねております。ご不便をおかけいたしますが、何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

セミナー聴講

医師・歯科医師に限らず、がん治療に関わる方を対象に、教育セミナーの聴講事業を行っております。

定員は50名ですので、お早目にお申し込みください。

（詳細は、<http://www.jbct.jp/admission>）

申込期間	2018年7月25日(水) 正午～8月20日(金)(予定)
対象者	メディカルスタッフ、医薬情報担当者(MR)、研究・開発担当者、医歯薬・医療系の大学生・大学院生・専門学校生、行政の担当者など
受講料	13,100円

2019年度教育セミナー・ 認定医試験開催情報

日程

教育セミナー：2019年11月9日(土)、10日(日)

認定医試験：2019年11月10日(日) 午後

会場 インテックス大阪 6号館

なお、2020年度まではインテックス大阪で開催する予定です。

2018年度 教育セミナー・認定医試験概要

詳細はHPをご確認ください。

開催日程

教育セミナー:10月27日(土)、28日(日)
認定医試験:10月28日(日)13:00~
会場:インテックス大阪6号館Cゾーン

申込期間

6月18日(月)~7月25日(水)

本機構HPよりお申込のうえ、所定の金額をご入金ください。

費用

教育セミナーのみ 13,100円
認定医試験のみ 13,100円
セミナー・試験両方 23,100円

※いずれもテキスト代・事務手数料・消費税込



テキストは、8月末に送付いたします。
必ず事前に予習をしたうえで、受講・受験に臨んでください。

●教育セミナー 講義内容一覧

I：がん治療に求められる基盤的知識

1. がんの生物学・分子生物学 (大木 理恵子・国立がん研究センター)
2. 家族性腫瘍 (三木 義男・東京医科歯科大学)
3. 腫瘍免疫学 (河野 浩二・福島県立医科大学)
4. がんの疫学・がん検診 (中山 富雄・国立がん研究センター)
5. 臨床研究と統計学 (中村 健一・国立がん研究センター中央病院)
6. 病理学(分子病理学を含む) (牛久 哲男・東京大学)
7. 画像診断学 (中谷 航也・倉敷中央病院)
8. 外科治療学概論 (藤原 俊義・岡山大学)
9. 化学療法概論 (藤原 豊・国立がん研究センター中央病院)
10. 分子標的療法概論 (衣斐 寛倫・愛知県がんセンター研究所)
11. 放射線療法概論 (中村 和正・浜松医科大学)
12. 緩和医療特論 (木澤 義之・神戸大学)
13. 精神腫瘍学(サイコオンコロジー)
(内富 庸介・国立がん研究センター中央病院)
14. がん救急 (瀧川 奈義夫・川崎医科大学)
15. がんの診療と倫理 (堀田 勝幸・岡山大学)

II：各種悪性疾患の診断と治療の基本原則

1. 脳腫瘍 (橋本 直哉・京都府立医科大学)
2. 頭頸部がん (家根 旦有・近畿大学医学部奈良病院)
3. 食道がん (小島 隆嗣・国立がん研究センター東病院)
4. 胃がん (掛地 吉弘・神戸大学)
5. 大腸がん (植竹 宏之・東京医科歯科大学)
6. 肝がん (山下 竜也・金沢大学)
7. 胆道がん・膵がん (石原 慎・藤田保健衛生大学)
8. 肺がん (岸 一馬・虎の門病院)
9. 乳がん (遠山 竜也・名古屋市立大学)
10. 婦人科がん (板持 広明・岩手医科大学)
11. 骨・軟部腫瘍 (田仲 和宏・大分大学)
12. 泌尿器科腫瘍 (西山 博之・筑波大学)
13. 皮膚がん (吉野 公二・都立駒込病院)
14. 白血病 (門脇 則光・香川大学)
15. 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫 (石澤 賢一・山形大学)
16. 小児がん (滝田 順子・東京大学)

がん治療認定医 がん治療認定医(歯科口腔外科) 2018年度 更新手続について

対象者

2014年4月1日付で認定または更新認定された方で、資格更新を希望される方

更新手続

対象者には個別に郵送にて通知いたしますので、更新資格を確認の上、ホームページより**6月11日~8月31日**の間にお申込ください。

(詳細は、ホームページ「更新【2018年度】申込・申請手続」をご確認ください。)

(参考) 2017年度更新状況

初回取得年度	2007年度	2012年度
更新回数	2回	1回
更新率	91.0%	90.7%



更新WEBテストについて一旦、試験問題を印刷し、テキスト等で十分に自習したうえで、専用サイトより解答を行ってください。

認定研修施設

2018年度 更新手続・在籍報告について

更新手続

対象施設

2013年11月1日付で認定または更新認定された施設で、更新を希望される施設

更新手続

対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設更新通知書」をお送りいたします。
(詳細は、ホームページ「認定研修施設更新申請」をご確認ください。)

在籍報告

対象施設

更新手続対象(上記)以外の施設

提出方法

対象施設には施設長あてに個別に郵送にて「認定研修施設在籍報告のお願い」をお送りいたします。
(詳細は、ホームページ「認定研修施設在籍報告受付」をご確認ください。)



申請書類の提出あるいは在籍報告の届出がない場合には、施設の認定を取り消される場合がありますのでご注意ください。



編集後記

本機構も設立10周年を迎え、今年は「10年史」を刊行いたしました。「10年史」を見ると、本機構を立ち上げ、軌道に乗せるまで、本当にたくさんの方が努力されてきたことがよくわかります。その献身的なご努力により、本機構はこれまでに15,000名を超えるがん治療認定医を輩出し、本ニュースで紹介していますように2017年度も845名のがん認定医を新たに認定いたしました。これからも本機構は日本のがん治療水準の向上を目指し、事業を進めてまいります。より多くの方々に本機構の事業をご理解いただく必要があると考えています。その一環として本ニュースを通じて事業内容やがん治療認定医情報を発信してまいりますので、今後ともよろしくご依頼申し上げます。

(広報・編集委員会委員長 張替秀郎)